

# 2017年3月期（第21期） 決算説明会

(2016年4月～2017年3月)

2017年5月10日

日本通信株式会社

## I. 2016年度決算にあたり

(代表取締役社長 福田 尚久)

## II. 2017年3月期決算の概要

(代表取締役常務 片山 美紀)

## III. 2018年3月期の取り組み

(代表取締役常務 片山 美紀)

## IV. Q & A

### <ご注意>

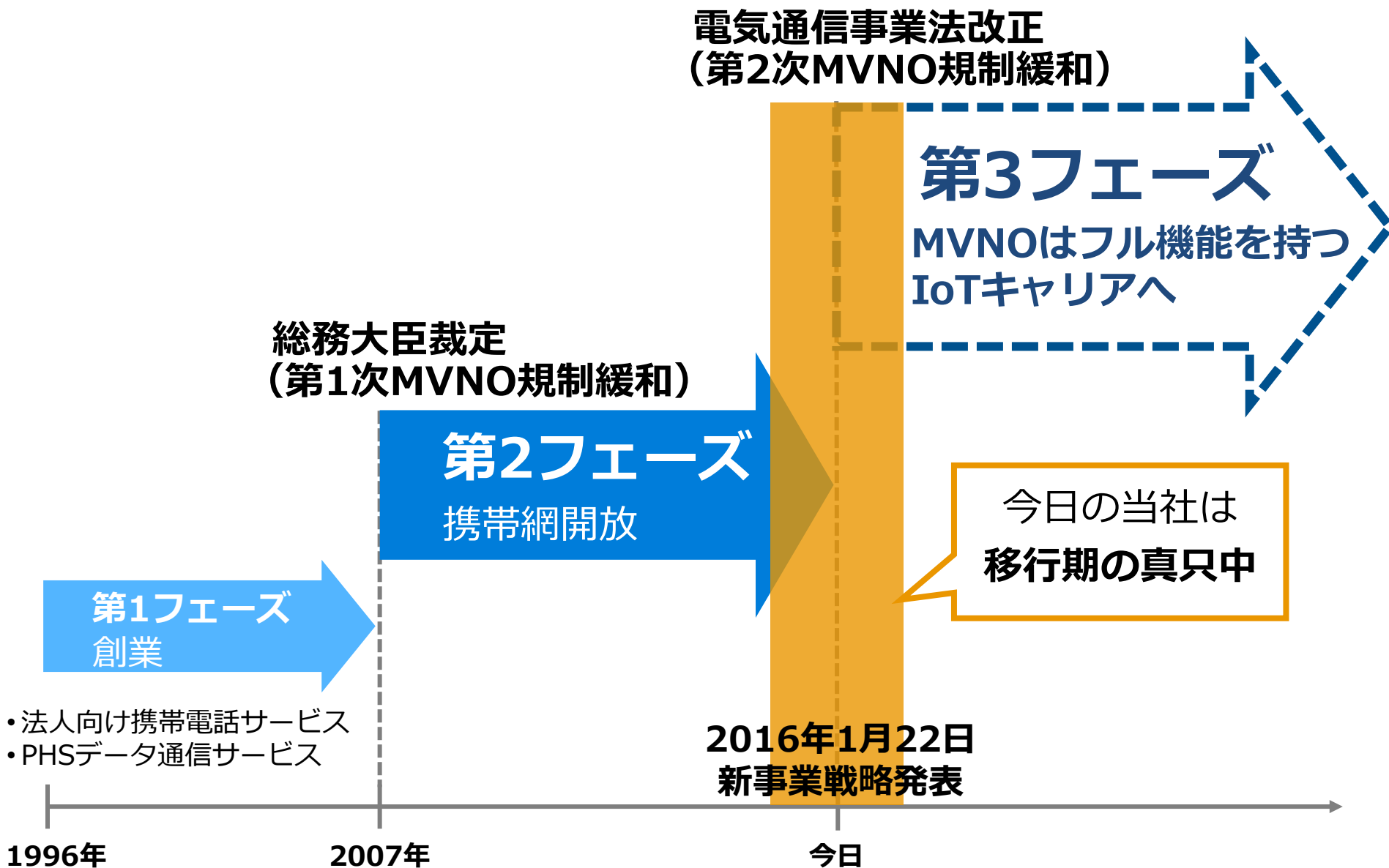
本資料に記載された見解、見通し、および予測等は、本資料作成時点での当社の判断によるものです。当社では、これらの情報の正確性を保証するものではありません。また、今後の市場環境の変化等の様々な要因により、今後の見通しおよび予測等が本資料とは異なるものとなる可能性があります。何卒ご承知おきくださいますよう、お願い申し上げます。

# 2016年度決算にあたり

代表取締役社長

福田 尚久

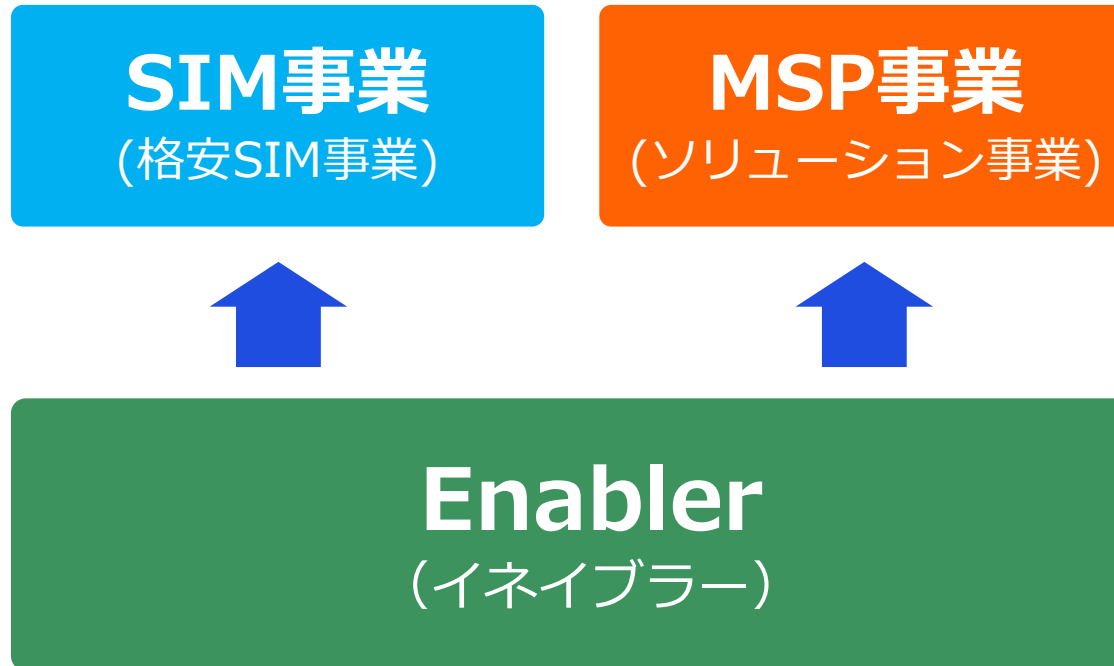
# 移行期の真只中



# 成長に向けた体制は整った

2016年1月22日 発表  
新事業戦略

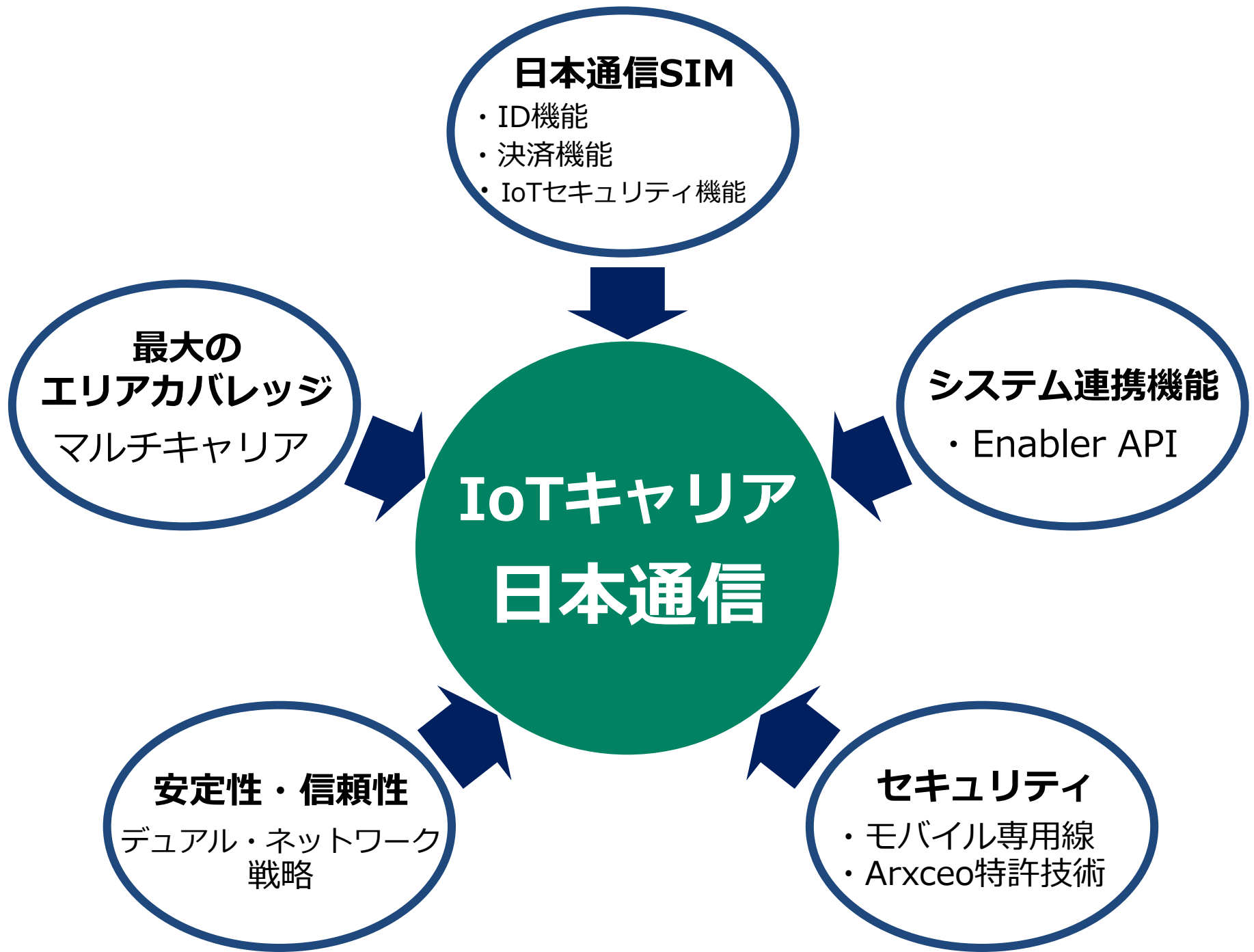
デュアル・ネット  
ワーク戦略



マルチキャリア

・ドコモ網    ・ソフトバンク網    ・KDDI網(予定)

・U-NEXT  
・ヤマダ電機  
(ヤマダニューモバイル)



# 2017年3月期決算の概要

代表取締役常務

片山 美紀

# 2017年3月期実績 (連結)

	2016年3月期			2017年3月期			2017年3月期 業績予想 (2017.2.2)
		Rev %	Y to Y 成長率		Rev %	Y to Y 成長率	
売上高	4,109	100.0%	▲20.0%	2,659	100.0%	▲35.3%	2,660
売上原価	3,459	84.2%	30.8%	2,242	84.3%	▲35.2%	—
売上総利益	650	15.8%	▲73.9%	416	15.7%	▲35.9%	—
販売費及び一般管理費	2,647	64.4%	26.9%	2,117	79.6%	▲20.0%	—
営業利益	▲1,997	▲48.6%	—	▲1,701	▲64.0%	—	▲2,147
経常利益	▲1,993	▲48.5%	—	▲1,650	▲62.0%	—	▲2,103
親会社株主に 帰属する当期純利益	▲2,158	▲52.5%	—	▲2,198	▲82.7%	—	▲2,169



# バランスシート (連結)

単位：百万円	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	増減
<b>流動資産</b>	7,255	4,302	3,316	▲ 985
現金及び預金	4,307	2,591	2,306	▲ 284
売掛金	1,715	1,148	539	▲ 608
商品等	707	291	224	▲ 67
繰延税金資産	298	218	52	▲ 166
その他流動資産	246	379	256	▲ 122
貸倒引当金	▲ 19	▲ 326	▲ 62	263
<b>固定資産</b>	1,428	1,461	1,465	4
有形固定資産	335	278	242	▲ 35
無形固定資産	935	1,021	1,099	77
投資その他	158	161	123	▲ 37
<b>繰延資産</b>	-	-	9	9
<b>資産合計</b>	8,683	5,763	4,792	▲ 971
<b>流動負債</b>	2,278	2,307	2,894	587
買掛金	811	159	245	85
前受収益	88	88	121	33
借入金	991	1,665	1,466	▲ 199
その他流動負債	386	393	1,061	668
<b>固定負債</b>	1,563	752	141	▲ 611
<b>負債合計</b>	3,841	3,060	3,036	▲ 23
<b>純資産</b>	4,842	2,703	1,755	▲ 948
<b>負債純資産合計</b>	8,683	5,763	4,792	▲ 971

# キャッシュ・フロー計算書（連結）

単位：百万円	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	420	▲ 1,206	▲ 425
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 488	▲ 1,547	▲ 427
（うち、無形固定資産の取得による支出）	（▲368）	（▲387）	（▲292）
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,671	22	426
現金及び現金同等物に係る換算差額	16	▲ 73	▲ 18
現金及び現金同等物の増減額	1,620	▲ 2,804	▲ 444
現金及び現金同等物の期首残高	2,686	4,307	1,502
現金及び現金同等物の期末残高	4,307	1,502	1,058 <sup>*</sup>

\* キャッシュ・フロー計算書では定期預金1,248百万円は含まれていません。バランスシート（前頁）における現金及び預金2,306百万円との差額はこの定期預金によるものです。

# 2018年3月期の取り組み

代表取締役常務

片山 美紀

## 従 来

業績予想の公表は  
実質義務付け

決算短信の書式として記載が  
求められている事項

- 売上高
- 営業利益
- 経常利益
- 当期純利益
- 1株当りの当期純利益



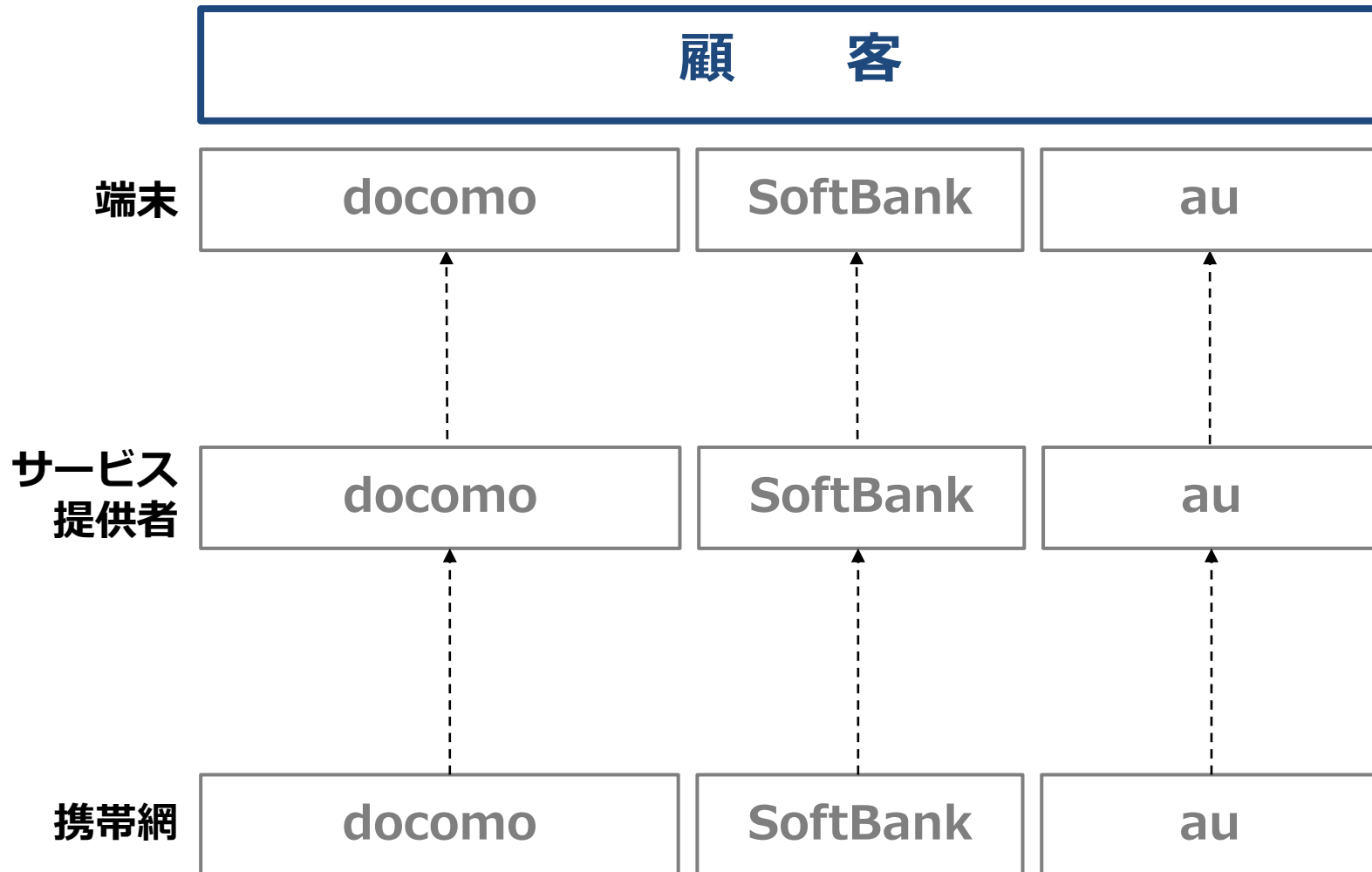
## 今 後

「自社の状況及び将来の経営方針に関して最も詳細かつ正確な情報を有する上場会社自身によって開示される将来予測情報は（中略）投資者にとって有用な投資判断情報であると位置付けられます。」

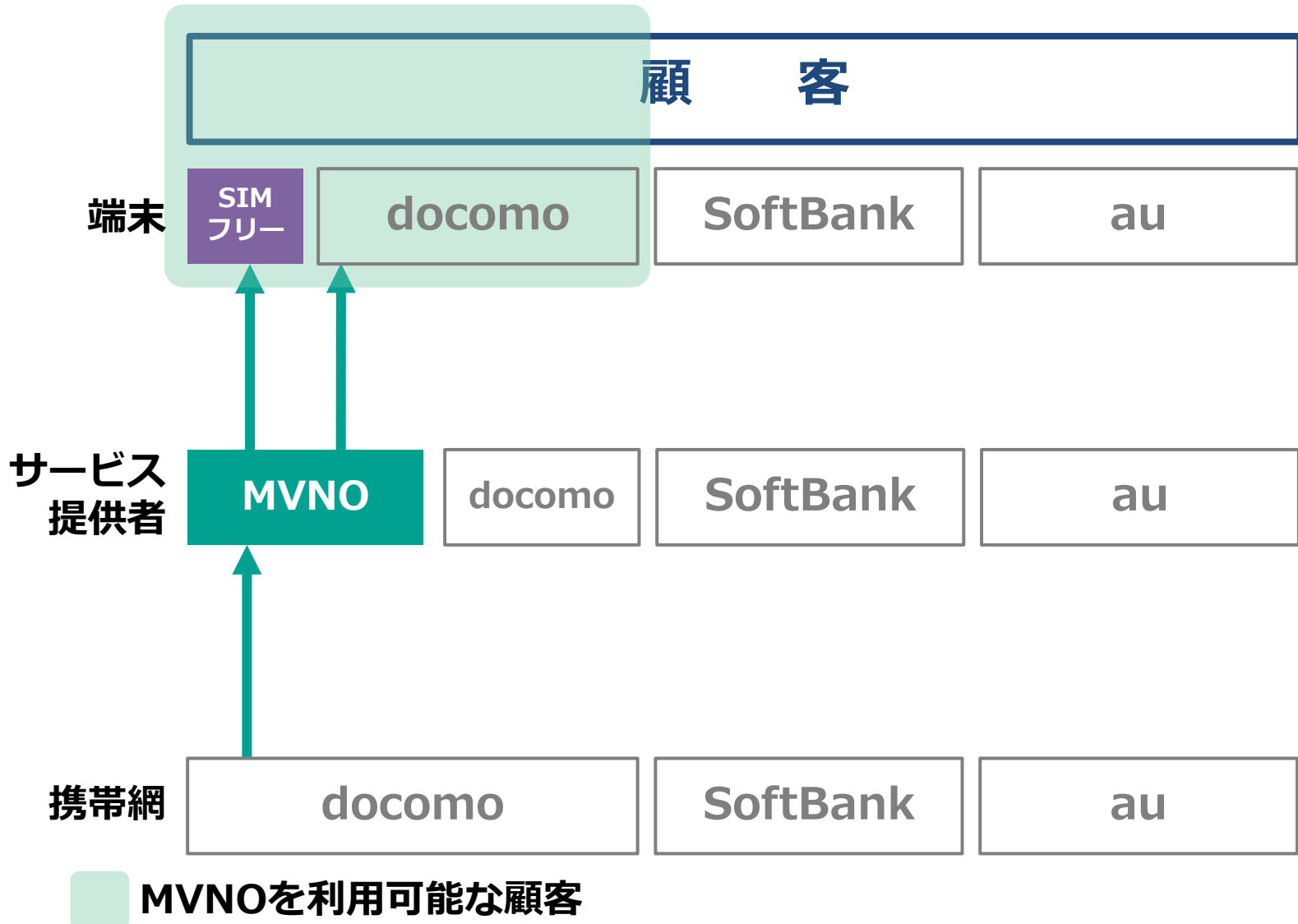
決算短信の書式変更

「ここには投資者が通期業績を見通す際に有用と思われる情報をご記載ください。」

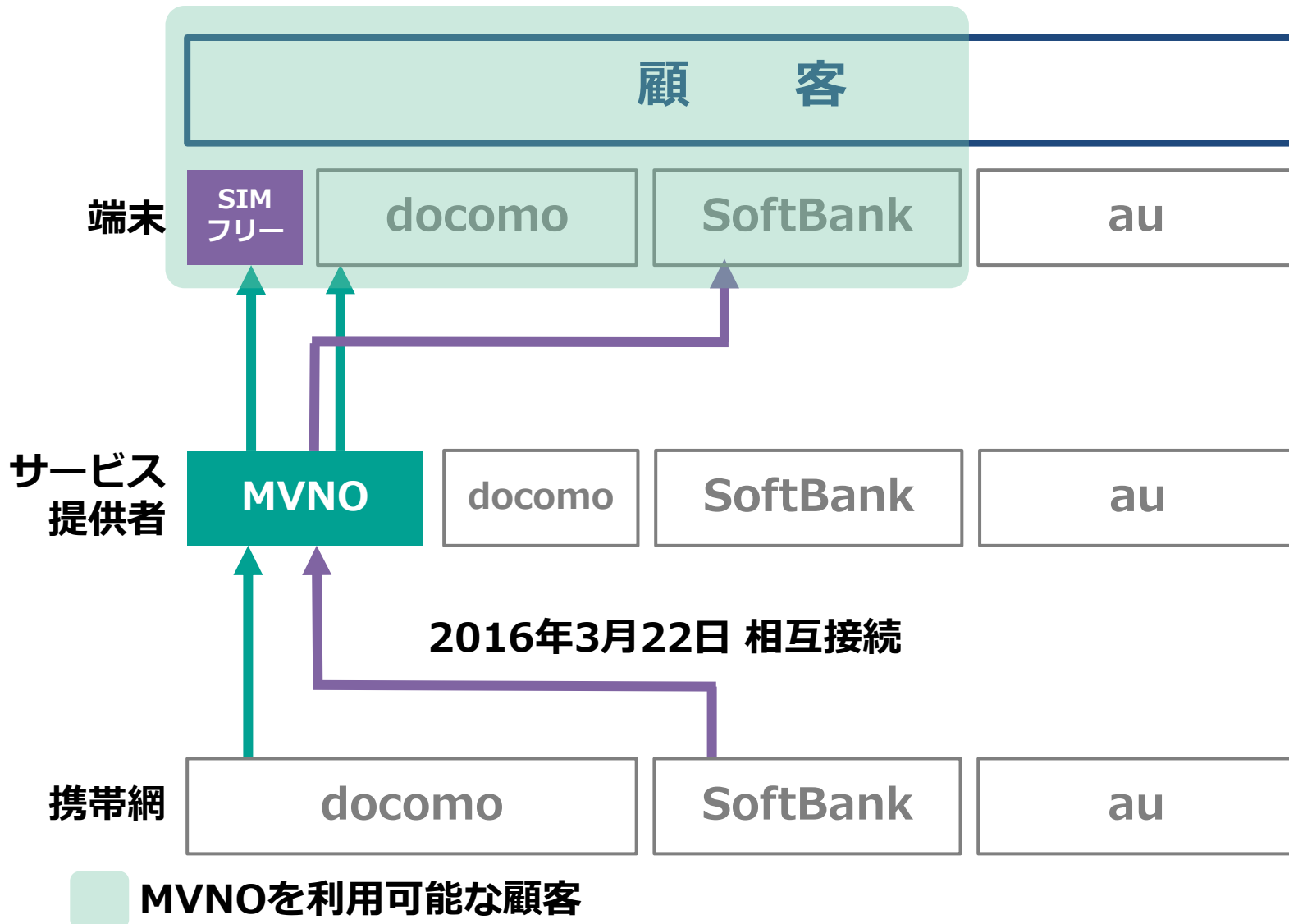
# 垂直統合の時代



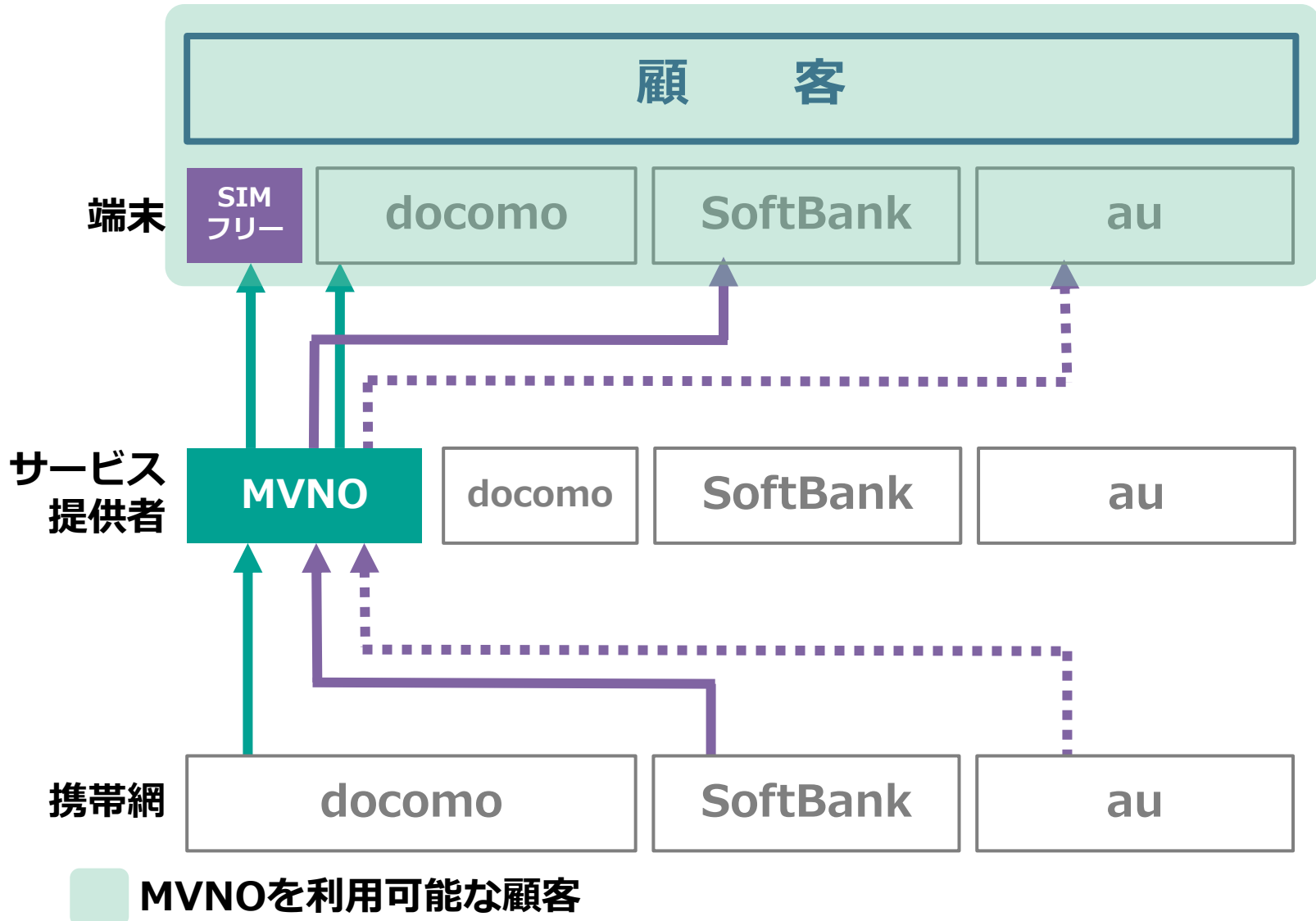
# MVNO誕生



# 対象顧客の拡大

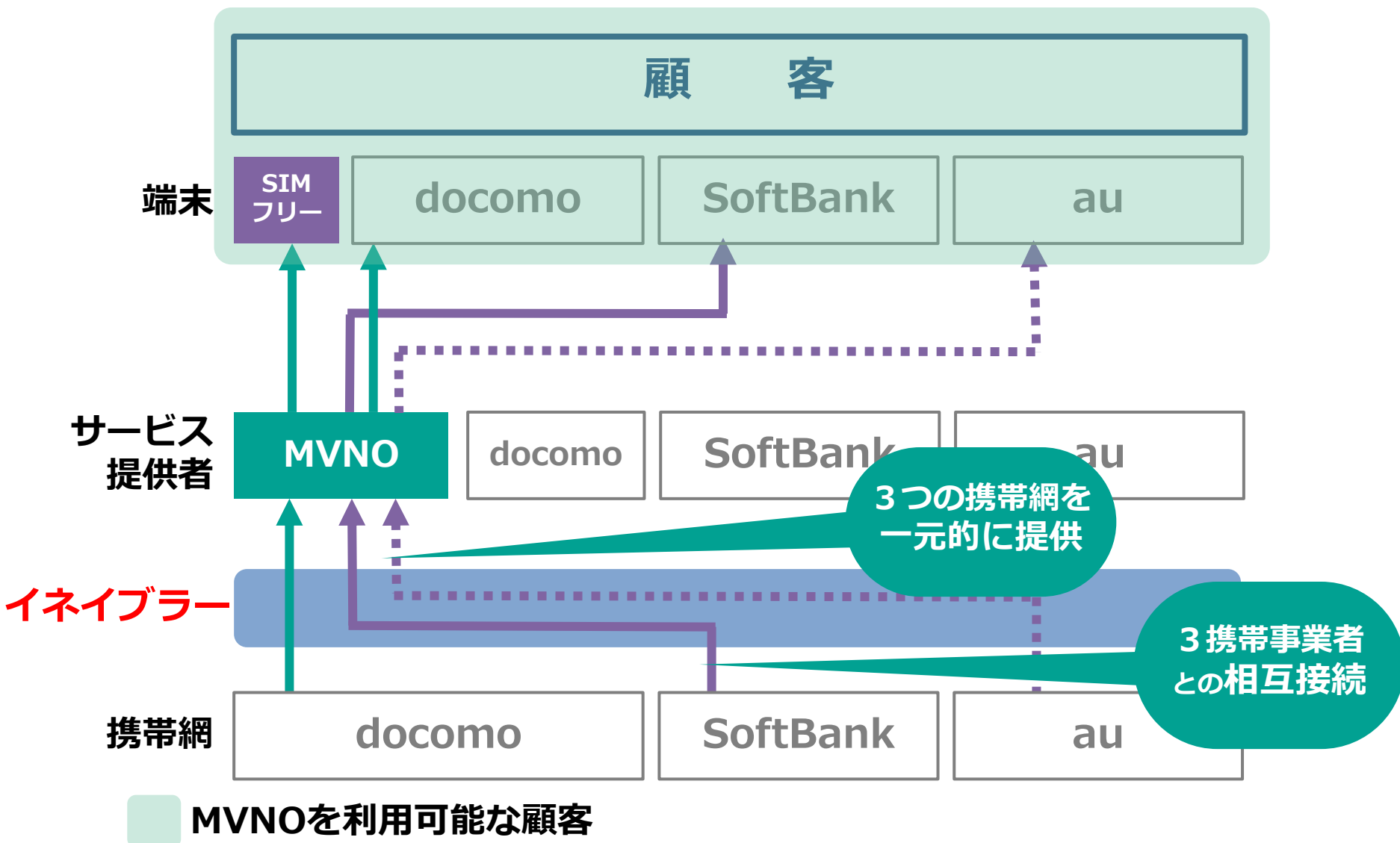


# 全キャリアとの相互接続へ

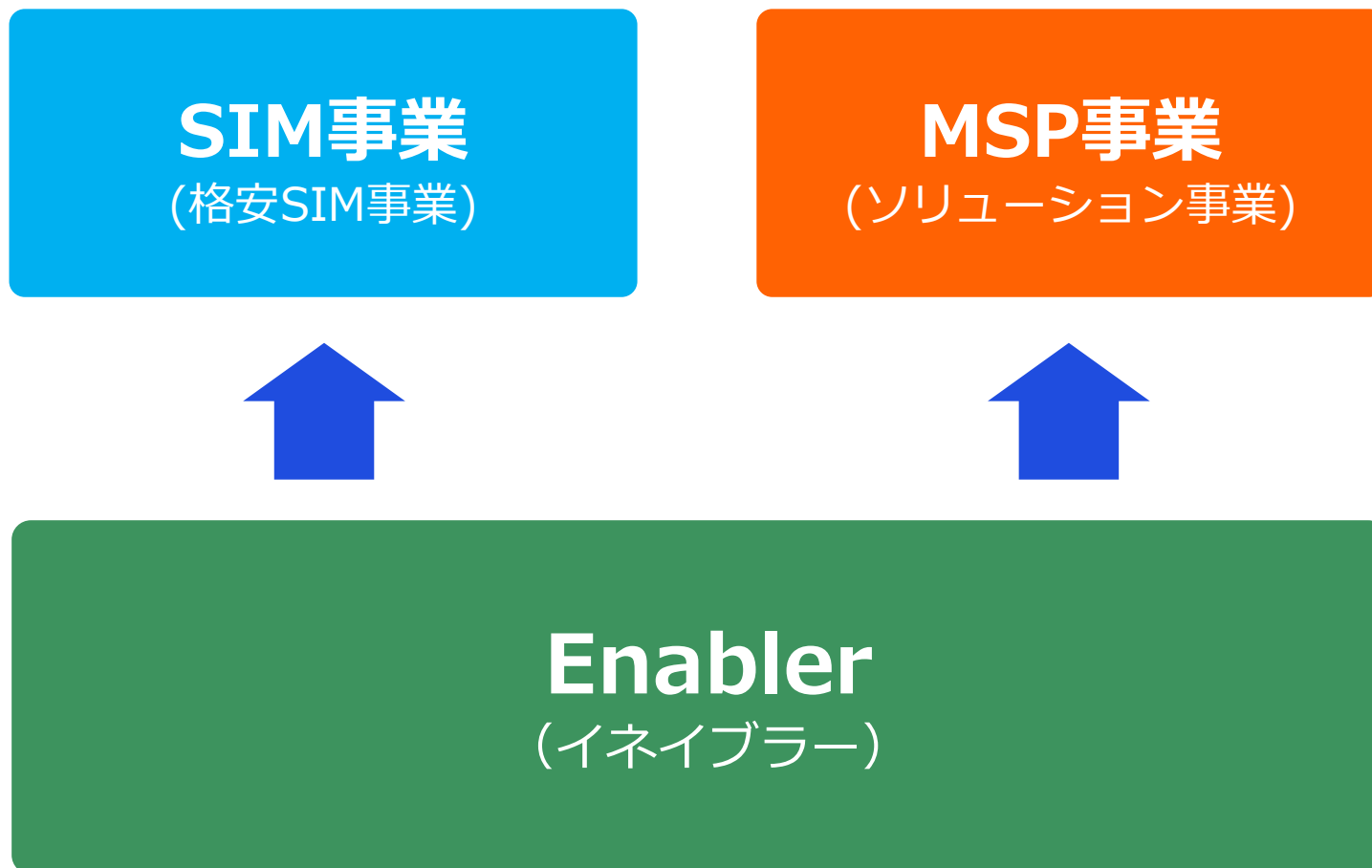




# MVNO事業からイネイブラー事業へ

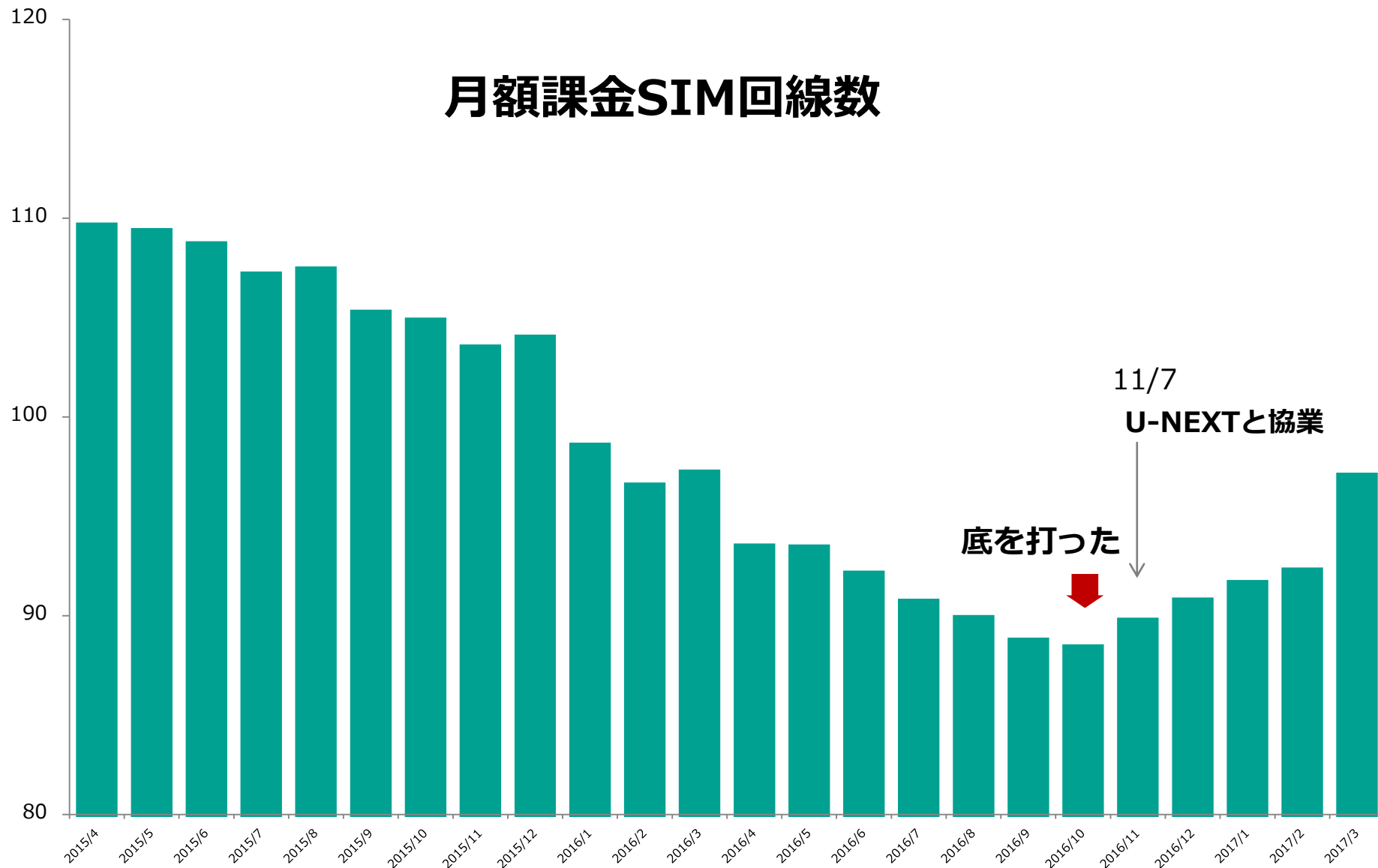


# 新事業戦略 (2016年1月22日公表)

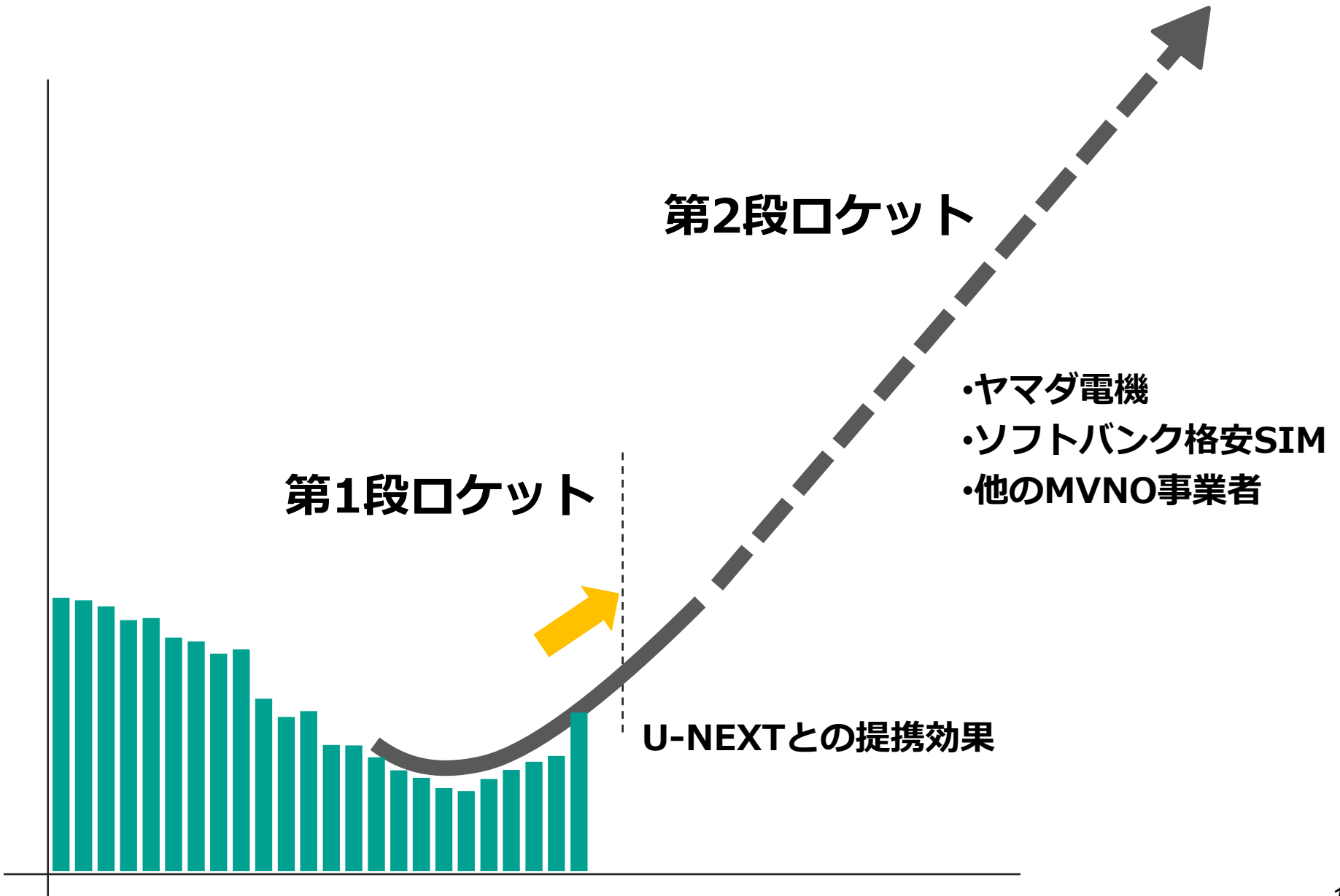


(千回線)

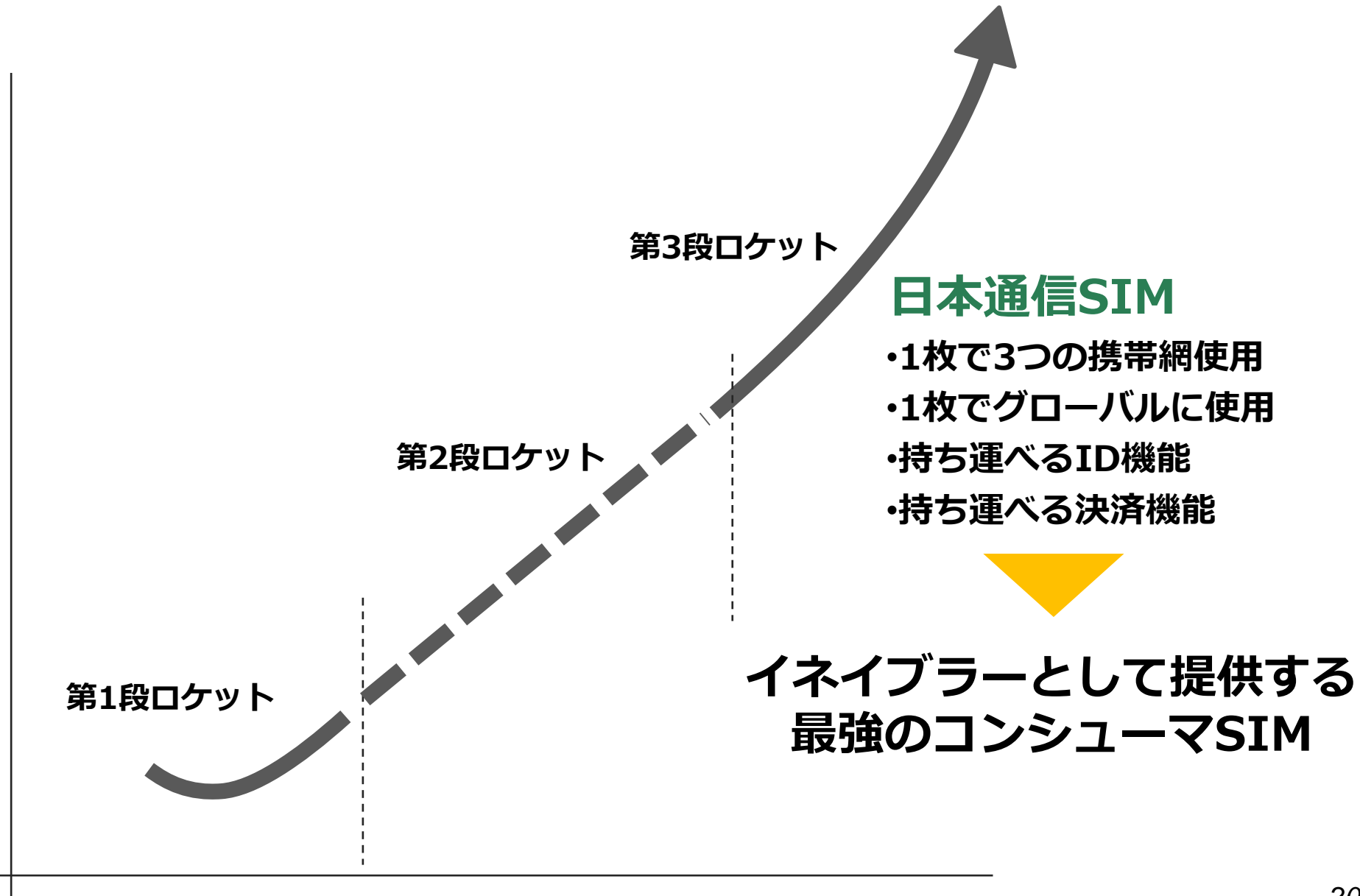
## 月額課金SIM回線数



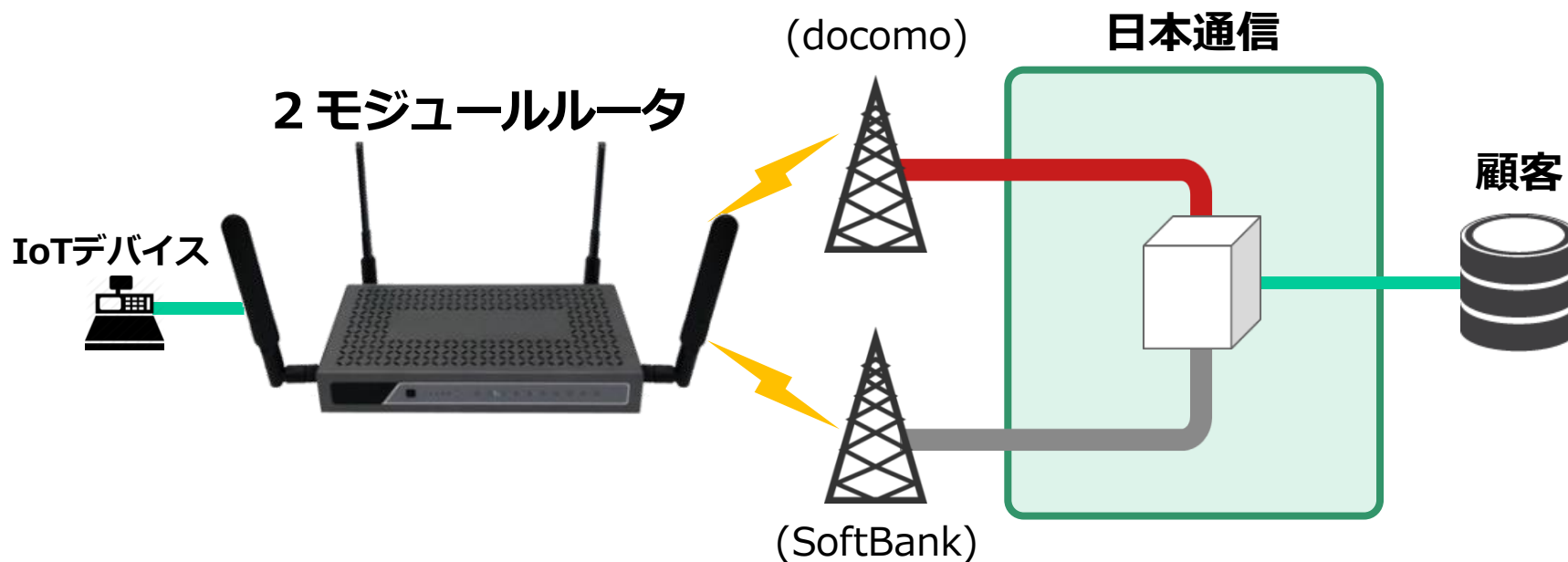
# SIM事業 第2段ロケット



# SIM事業 第3段ロケット



## デュアル・ネットワーク戦略



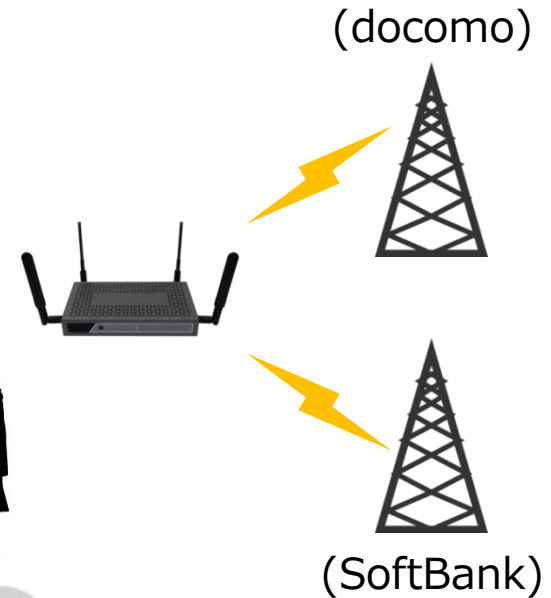
### 2大特長

- ① エリアカバレッジ
- ② 安定性・信頼性

# エリアカバレッジを活かした事例

## デュアル・ネットワーク戦略

ATM車

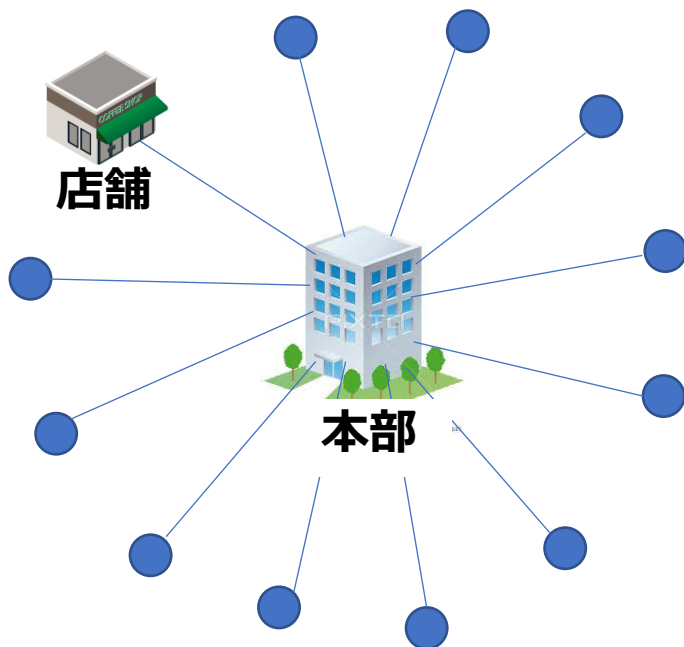


※イメージ

IoTでは、エリアカバレッジが最も重要

# 安定性・信頼性を活かした事例

多拠点間の情報のやり取り



固定網を  
無線化



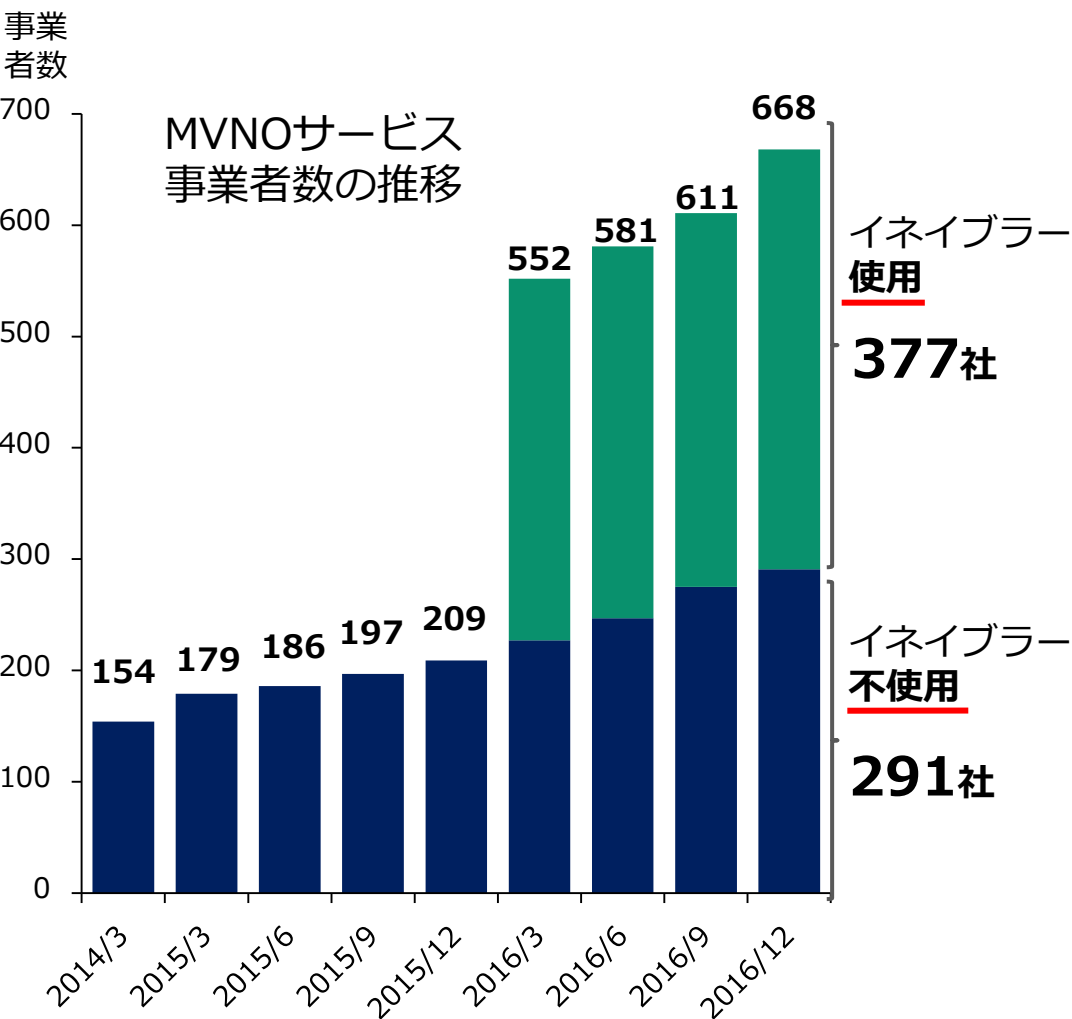
NTTドコモとソフトバンクの  
2つの携帯網を二重化して  
使うことで、固定回線を  
低コストで置き換え可能

## 月額通信コスト 50%削減を提案

固定網を置換可能な安定性・信頼性



# イネイブラー事業の市場



## MVNO事業への新規参入 最近の傾向

- 法人向けが増加
- 異業種からの参入が増加

イネイブラーとしての  
役割が大きくなっていく

# イネイブラー事業者としての戦略

**SIM事業**  
(格安SIM事業)

**MSP事業**  
(ソリューション事業)

**Enabler**

- SIMの卸提供
- 低価格料金プラン
- ロジスティクス
- コールセンター業務
- 新ソリューションの提供
  - デュアル・ネットワーク
  - セキュアSIM2SIM
  - 2点間モバイル専用線 他
- ネットワーク構築
- システム連携機能
  - Enabler API
  - ポータル提供
- 技術サポート
- 3キャリアの通信網を一社で提供

イネイブラー  
事業者としての  
役割

**Q & A**